

寒冷期の災害から命と健康を守るために. 寒さに対する備えを (1/2)

担当：門廻充侍 助教（津波工学研究分野），江川新一 教授，佐々木宏之 准教授（災害医療国際協力学分野）

[阿南（2012）](#)：4つの因子を挙げ，複合的作用→大きく影響する可能性

1. 低い気温環境

冬季は屋外に限らず，屋内でも暖房器具の欠如などで寒い環境が形成

例：停電，地震動による外壁損傷 → すきま風の侵入

2. 高齢者

自力での熱産生能力が低下，外気温の影響を受けやすい

3. 体温喪失物との接触

冷たい物質に長時間接触することで体温が喪失する

例1：降雪・降雨により，衣服が濡れる

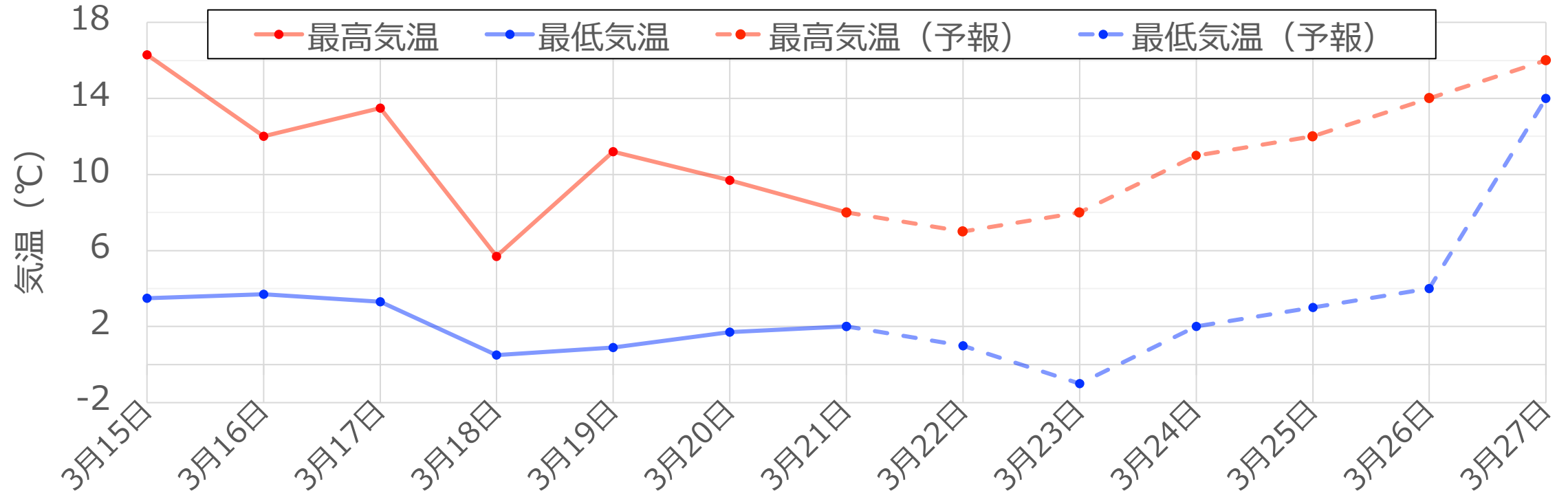
例2：避難先の冷たい床面に，直接身体が触れる

4. 熱産生能低下

体力消耗，十分な食事摂取ができない状況が長期化する

寒冷期の災害から命と健康を守るために. 寒さに対する備えを (2/2)

担当：門廻充侍 助教（津波工学研究分野），江川新一 教授，佐々木宏之 准教授（災害医療国際協力学分野）



データ：気象庁，日本天気協会(3/21参照)

次の災害に向けて，改めて，**寒さに対する備え**をお願いいたします。

- 停電した場合，どのように暖を取るかチェックする。
- 非常用持ち出し袋に，折畳ダウンジャケットや機能性衣類を入れておく。
- **ダンボールベット**の使用は，断熱効果が高く効果的 ([水谷・根本, 2018](#))